

第6次高浜市総合計画推進会議（第2回） 会議録			
日 時	平成30年8月21日（火）午後7時～8時30分		
場 所	いきいき広場 ホール（2階）	傍聴人数	4名
出席者	委 員	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、菅野洋一、清水恵子、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏 (12名出席)	
	行 政	市民総合窓口センター長 中村孝徳 福祉部長 加藤一志 都市政策部長 杉浦義人 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 芝田啓二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 神谷義直 地域福祉グループ リーダー 木村忠好 健康推進グループ リーダー 磯村和志 企業支援グループ リーダー 島口靖 上下水道グループ リーダー 杉浦睦彦 介護保険・障がいグループ リーダー 野口恒夫 福祉まるごと相談グループ リーダー 野口真樹 学校経営グループ 主幹 村越茂樹 (14名出席)	
	事務局	企画部長 深谷直弘 総合政策グループ リーダー 榊原雅彦 同 副主幹 山本久美 同 主 事 小林春奈 同 主 事 加古博紀 同 主 事 中村 稔 (6名出席)	
次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 「中期基本計画の総括シート」の発表について〔基本目標Ⅲ・Ⅳ〕 2) 中期から後期につなげていくために 3 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画 基本計画【中期】の総括 〔基本目標Ⅲ・Ⅳ〕 当日配布：第1回 総合計画推進会議 会議録		

1. あいさつ

- 会 長： ・第1回の会議と同じように中期基本計画に掲げた目標の達成状況を点検・確認するという事で、行政内部でとりまとめた「中期基本計画の総括」シートの内容を発表してもらう。
- ・4年間の取組内容や成果、課題などを確認し、ともに総合計画を推進してきた私たち委員から、今後に向けて、取組みをよりよくするための意見を述べていきたい。
- ・本日は、基本目標Ⅲ（産業振興・環境保全・都市基盤整備・安心安全に関する分野）、及び基本目標Ⅳ（地域福祉・健康に関する分野）が該当になる。
- ・議題に入る前に、先回の推進会議で委員から質問があった事項について行政の方から回答があるので、お願いしたい。
- 事務局： ・竹内委員から指摘いただいた、市民意識調査のグラフを変更した。
- 行 政： ・前回、酒井委員から市税の滞納徴収マニュアルは整備されているのか、また近隣市と情報交換はしているのかという質問をいただいた。
- ・マニュアルは県などが作成しているものを使用している状況である。
- ・近隣市とは、西三河滞納整理機構に職員を派遣して日常の業務に関して常に情報交換している。また、西三河税務協議会の徴収部会に担当者が出席し情報交換を行っている状況である。
- 行 政： ・宮田委員から学校で自治基本条例の子ども用副読本は、どのように活用されているのか、各学校の実態について調査してほしいとのことであったが、教科指導として主に6年生の授業の中で活用している。また、「のびゆく高浜」と副読本の関連項目について資料にまとめており、授業を進めていく中でいかしているという状況である。

2. 議題

1) 「中期基本計画の総括シート」の発表について

- 会 長： ・議題1「中期基本計画の総括シート」の発表についてに入る。まずは基本目標Ⅲの発表ということで、資料1の8ページから目標（6）～（9）までの発表からお願いしたい。
- 行 政： <目標（6） 資料1 8～12ページを基に発表>
 <目標（7） 資料1 14～17ページを基に発表>
 <目標（8） 資料1 18～21ページを基に発表>
 <目標（9） 資料1 22～26ページを基に発表>
- 会 長： ・ただいまの発表で意見等があればお願いしたい。
- 委 員： ・21ページ、目標（8）シートのⅢ.「課題と今後の取組みの方向性」の（1）で、長寿命化の背景（設備が古くなっていたとか故障率の割合、修繕費が多くなってきたなど）をしっかりと出さないとわからない。急に出てきた話に思えてしまう。
- 行 政： ・今ある市内の道路やライフライン等については、高度成長期に築造されたの

が多く、40～50年経っている状況である。

- ・また、長寿命化が取りあげられるきっかけとなった、東名高速道路の笹子トンネル落下事故があり、社会的なインフラが長寿命化されず放置されているという状況を知らしめられた。
 - ・そのことで安全を含めた長寿命化を行った方がいいという流れになった。今あるものをより有効に使うというところが説明で一つ抜けていたかと思う。
- 委員：
- ・12ページ、目標（6）シートのⅢ、「課題と今後の取組みの方向性」の（1）に関連していうと、企業誘致した後のことも考えてほしい。具体的には、既存企業・事業主と新しい企業の接点をつくってほしい。
 - ・誘致してから動いては時間のロスが出てくる。
 - ・SBPについて高校生が出向いてイベントに参加し活動しているが、試験期間中などで出れない場合、事業がストップしてしまうことがある。そこをサポートしている企業や団体が代わりに運用を行なえないのか。中学生などを活用してもよいと思う。
 - ・25ページ、目標（9）シートのⅢ、「課題と今後の取組みの方向性」の（1）の中で、事業主や企業の記載が抜けているので付け加えてはどうか。
- 行政：
- ・誘致した企業と既存企業との接点をつくることにより、それぞれの企業の取り引き拡大などにつながり、経営の安定に相乗効果があるので、意見については、課題の中の支援制度のPRの中に入れて考える。企業間のつながりは今後の産業の活性化には必要な指摘であると感じている。
- 行政：
- ・SBPの取組みについて、事業としては高校生が主体となって行っていくという活動ではあるが、SBP活動自体が地域のつながりを目的としてやっている部分もある。
 - ・例えばメンバーの高校生の一人が、地元の人形小路を活性化したいということで事業を発案しているということもあり、主体性をもって提案できれば、他団体とのコラボも進んでいくと考えており、目的の達成のひとつにもなるかと思う。
- 行政：
- ・防災力強化につながる事業主との関係については、23ページのⅡ、「目標達成のための主な取組み」の（1）平成29年度の取組み、①に記載しており、企業の防災力強化ということで様々な取組みを開始している状況である。
 - ・今後についても、同様な取組みを進めていきたいと考えている。
- 委員：
- ・21ページ、目標（8）シートのⅢ、「課題と今後の取組みの方向性」の（2）で配水管の耐震性が挙げられているが、災害のニュースなど見ると給水車が活用されている例がよくある。配水管の強度を上げると同時に給水車の配備を進めてはいかがか。
- 行政：
- ・給水車は平成29年度に配備した。
 - ・それ以前はトラックにタンクを載せて応急給水を行うという体制をとってい

たが、昨年度給水車を配備したので、今年度の総合防災訓練では4会場で実際に給水訓練も行う予定である。

- 委員：・17ページ、目標(7)シートのⅢ.「課題と今後の取組みの方向性」の(1)の記載で、条例のさらなる推進となっているが、16ページのⅡ.「目標達成のための主な取組み」の(2)平成29年度の取組み、③に調査したとの記載がある。調査結果から見えてきた問題を課題として挙げるべきではないか。新たな問題があったのならば、さらに追記するべきなのではないか。
- 行政：・Ⅲ.「課題と今後の取組みの方向性」については、Ⅱ.「目標達成のための主な取組み」(こんなことに取り組みます)と関連付けるため、このような書きぶりになっている。資料の全体的なことに関わってくることから、事務局と相談して書きぶりを検討したい。
- 委員：・工業用地の関係で、「新たな工業用地を創出し」となっているが、今行われている、豊田町と小池町以外の考えなのか。また、現在の事業の進捗状況はどうか。
- ・SBPに関して、まち協と協力し活動してはどうかと感じた。
- 行政：・豊田町については、今年度造成工事が完成する予定である。昨年度2区画に分け、進出を希望する企業の公募を行い、現在2区画とも契約済みの状況である。
- ・小池町については、民間主体で進めている。現在、企業間の調整などは民間の方が行っており関係法令の整備等は行政の方が支援を行っている状況である。
- ・12ページに記載の新たな工業用地の創出については、豊田町と小池町は中期から後期につなげていく事業であり、この2地区のことである。
- 行政：・SBPに関する提案、Sの絆焼きをまち協でPRできるのではということであるが、事業の参考にしている、南伊勢高校がSBP全国交流フェアに出場し、地元の協力者の方が焼いてPRしていると発表していた。提案いただいた内容と同じことを行っているということであった。
- ・有益な手段であると考えますので、参考とさせていただく。
- 会長：・では、次に基本目標Ⅳの発表に入る。資料28のページから目標(10)(11)の発表をお願いしたい。
- 行政：　　<目標(10)　資料1　28～31ページを基に発表>
　　<目標(11)　資料1　32～36ページを基に発表>
- 会長：・ただいまの発表で意見等があればお願いしたい。
- 委員：・認知症予防のための取組みについて、今後もホコタッチの取組みは続いていくのか。
- 委員：・35ページ、「課題と今後の取組みの方向性」の(2)若い世代の健康づくり活動の促進のところで、情報が届くような取組みというよりは、ホコタッチを50代とかでも使えるようにするなどを考えていただけると良いかと思う。

平成29年度、市民意識調査の結果について、20・30代が指標高く、50・60代の指標が低い、目標（10）でなぜ20・30代の指標が高いのか。新興住宅地にアンケートが集中したとか傾向があれば教えてほしい。アンケートの取り方の工夫をしているのか伺いたい。

行政：・現在、国立長寿医療研究センターなどと協力を行い、ホコタッチを使った外出支援を行っているが、調査研究については2020年3月で一旦終了する予定である。しかしながら2020年4月以降においてもホコタッチは有効活用していきたいと考えているので、当面の間はホコタッチを使った事業展開は継続していく予定である。

・また、若い世代の健康づくりに関係して、50代のホコタッチ利用についてということだが、調査研究事業については2020年3月切れるということで、3月までは60歳以上の高齢者を対象としていくが、2020年4月以降については、若い世代の方にもホコタッチ利用し健康づくりに励んでもらいたいと考えている。世代の幅は広げていきたいと考えている。

行政：・市民意識調査アンケートは、地区や世代の偏りがないように無作為抽出し発送している。

委員：・高浜市の障がい者雇用のレベルはどのくらいか。

行政：・（市役所は）障がい者の法定雇用率について、現状ではクリアしているが、今後、雇用率の引き上げの関係等もありますので、留意しながら応募の方も行っていきたいと考えている。

委員：・31ページ、生活困窮者の子どもたちの学習支援が進んでいるが、取り組みを拡大するなどの考えはあるのか。

行政：・時代に合った対応を行っていきたいと考えている。

・今までは、小学校4～6年生までのひとり親家庭の子を対象に、中学生・高校生の方は就学援助を受けている方や生活保護を受けている方を対象にということで、条件が違っていたが、平成30年度については、同じ条件で行うこととしている。小学校4～6年生までのひとり親家庭・就学援助・生活保護を受けている、どの子どもでも対象となる。

中学生・高校生の方でも同じでひとり親家庭であれば対象になるということで、対象者の範囲を拡大した。

・学習支援事業については、単に学習を教えるということだけでなく、子どもたちの自立の支援をしていきたいと考えているので、キャリア教育や子ども食堂との連携などもしていきたいと考えている。

会長：・総括的にコメントさせていただく。

・目指す姿、市民意識調査の結果、みんなで目指すまちづくり指標などを踏まえた状況で現状分析し、課題を導き出すという構造であるが、2つ問題がある。

・市民意識調査の結果をふまえた要因の分析が分析になっていない。なぜ低下

したのか、なぜ変化したのかというところに突っ込んで分析しないと要因分析にはならない。客観的に事実を述べているだけの状況になっている。

- ・もう一つ、市民意識調査とは別のところで課題が出てきている。何年か経つと当たり前のことで、独自の調査を行なったら、それをふまえて何か新しい課題が浮上してきていますということを記載しないといけないが、その記載がなく、つながりが切れている状態である。
- ・今後の取り組みと方向性のところでも、体言止めと、用言止めが混在している。用言止めで記載した方がいい。

2. 議題

2) 中期から後期につなげていくために

- 会 長： ・議題2「中期から後期につなげていくために」に入る。
・事務局から、説明をお願いしたい。
- 事務局： ・資料1の37ページからについて、「中期基本計画進行管理体制」や「成果と課題」を事務局より説明
・過去の委員からの提言や事務局内での振り返り内容を記載してある。
・これ以上に付け加えた方がいい内容や後期基本計画進行管理への意見があれば、意見いただきたい。
- 会 長： ・ただいまの発表で意見等があればお願いしたい。
- 委 員： ・新たな課題が出てきたら、見直しをしてもらいたい。
- 会 長： ・永久に同じ課題ではない。場合によっては達成済みの課題が出てくる場合もある。途中で変わる課題もある。課題を弾力的にとらえてもいいのではないかという意見である。
- 委 員： ・企業では課題の中に問題があり、問題の中に原因があり、さらにその原因の中に真意があると考え。「なぜなぜなぜ」といった3回繰り返し原因を見つける。そういうようなやり方をとりいれてはいかかがか。
- 委 員： ・現状把握・要因分析をしっかりとまとめていただきたい。
・また、政策の順位付けをして実施していただきたい。
- 会 長： ・課題設定の仕方について、「課題」といったときに、国からいわれているもの、つまり法定受託事務は現状把握しなくても行うので、記載しなくてもいいのではないか。
・これを対策型課題と呼ぶが、そうでなく政策型課題、自治事務なども含めて自治体の主体性で行うといった場合は、その課題設定の仕方は広範囲になる。
・そうなると同様団体との比較、近隣自治体との比較などから解き起こさないと現状が見えない。その書き方が統一できていないのではないかと。
・みんなで目指すまちづくり指標だけが現状を図るツールではない。他のツールも駆使して現状分析をしていただきたい。
- 委 員： ・分析が足りないと思う。前年度一生懸命やったのに、行った結果、何が問題

であったか課題のところに入っていない。

- 会 長： ・それでは、最後に委員の皆さん、一人ひとりから、発言をお願いしたい。
- 委 員： ・アンケート報告書に地区別の結果も出ている。まち協の方と一緒に結果を考えると地域の段階で分析・対策ができるのではないかと感じる。まち協には交付金が交付されている、交付金の中身について行政政策との方向性にあったものを取り組んだ方が良くと思う。
- 委 員： ・まち協や市民・町内会の動きが身近になってしまっているので、市役所の動きが少なく感じているのだと思う。
- ・一般市民の方はどこまでが市役所の管轄というのがわかっていないと感じる。市民のわからないことに関して、浸透していくような、説明の仕方、情報発信が大事である。
- 委 員： ・高校を巻き込んだ取り組みに関しては、本人だけじゃなく学校や親の理解・環境の提供をしないと継続は難しいかなと感じる。行政の働きかけが市民に伝わり継続し、いろんな人の関わりを持って市を盛りあげていけたらよいと思う。
- 委 員： ・18ページの暮らしやすいという指標は下がる一方であるが、抽象的な指標は変え、一般にわかりやすい指標にすることも一つの手段である。
- 委 員： ・データは非常に重要であると思っていて、特に今年度のアンケートの数値が下がったということに関して、課題分析などは重要であり、後期の政策は地域や年代などターゲット絞ってやることを実施した方が良い。
- 委 員： ・課題はしっかりと取り上げていただきたいが、現場が一番である。机上のことよりも現場での行動に期待したい。
- 委 員： ・子ども食堂支援や学習支援、キャリア支援が必要でそれには教える人が必要である。ホコタッチで地域を歩いている方を取り込んでいけると良い。資源に頼るのでなくマンパワーを大切にしていきたいと思う。
- 委 員： ・中期4年間の間に人口増えて、戸建住宅も増えたが町内会の加入率は低下した。まちは良くなっていると思うので、新しい方へのPRの工夫に期待したい。
- 委 員： ・課題の見直しの話が多かったが、新たな課題が出てきたら成長してほしい。課題の成長という言葉に変えたいと感じた。
- 委 員： ・資料の主な取り組みが4年間の記載になっているが、2~3年くらいで、昨年の分析の努力をしてほしい。4年間の解析も入れてほしい。
- 委 員： ・課題に至った理由がわからない個所もあるので改善していきたい。
- ・今後の話の中で、企業誘致後の話が出ていたが、豊田町の企業は企業庁からの承諾を得ていないため、具体的な行動に移れないということになっているので理解をお願いしたい。
- ・耐震管の敷設の話は、現在大規模な避難所（学校等）などから先に耐震管の補修を行っている。

- ・障害者雇用率の話で、先ほど行政が発表したのは市役所の雇用率であるため、市全体の内容については、刈谷の労働基準監督署に確認させていただく。
- 会 長 :
- ・総合計画は役所がすることだけではない。目標を達成するためには行政はこういう努力を行います、住民・地域団体はこの取り組みを頑張ってください、というように手を結んで行っていくべきものである。
 - ・そうすると、まち協が力を入れるところが見えてくる。しかし、すべてをまち協が行わなくても、NPO が主体で行ってもよい。
 - ・民間でできないなら行政が直営で行うことになってくる。その代わり自力で地域が行えば交付金を交付するなど、いろんな住民自治のルールが発達してくると思う。そういうことが見える総合計画にもっていけば、わかりやすくなると思う。
 - ・現状を測定するための調査結果を使うときに注意すべきことは、結果調査・行動調査・意識調査を分けること。
 - ・データの的に結果が安定して出やすいのは客観的変化を測定する結果調査である。ただし、結果調査が出た時にはもう事が大分動いてしまっている。手遅れになっている場合もある。
 - ・手遅れにならないために、予防的に行動調査で見た方がいいのか、さらに予防的に・投資的に意識調査の段階で把握して、事を起こした方がいいのかという3つの段階がある。
 - ・意識は行動を呼ぶ、行動は結果を呼ぶという論理になっているが、意識調査の段階でかなり変動が出てきているので、ここでどう手を打つかという発表がほしかった。
 - ・今行政内で、戸惑いが出てきている。意識を変えるための政策を次に出さないといけない。予防の早い段階で手を打つためには、意識調査が重要である。次はかなり対策に近いが予防的に動こうと思ったら行動調査。一番説得力があるのは結果調査だが、それで対策していたら遅い。
-
- ・また、政策の優先順位の議論もできる市民層になってほしい。緊急度を図るためのものさしとして施策の加重効果が高いものが挙げられる。1つ政策を行なったら教育効果も高い、防災効果も高いものの優先順位をあげる。
 - ・これを政策コンプレックスという（ポリシーコンプレックス）。防災と学校教育が手を結び、1つの施策だけでなくあわせて他の部局の施策を協力しようということの意味する。
 - ・そうすると当然行政の内部のクロス連携が必要になってくる。相互連携・横断連携が求められてくるので、そこを意識した総合計画になればと思う。
 - ・さらに政策を行っていく上で、市民も縦割りではなく、横につないでいくという、協働（Coproduction）、お互いに協働して市民と行政、市民とNPOなどさまざまな形で、縦横無尽に関係を作ることが重要である。

- ・最後に、専用施設の時代が終わりつつある。今あるものを使い尽くすという発想で、コンバージョン（転換）の姿勢も重要である。
 - ・これらが政策の優先順位を決める際のキーワードになるかと思う。
- 会 長：
- ・委員の皆さまに「コメント用紙」が送付されている。本日の発言だけでは言い足りなかった点などがあれば、8月31日までに事務局へ提出をお願いしたい。
 - ・事務局の方では、本日、委員の皆さんからのご発言、コメント用紙の概要を、「シート」の「Ⅳ 推進会議コメント」の欄にとりまとめて、第3回の推進会議で「推進会議からのコメント」として確定するという形で進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

2. その他

- 会 長：
- ・「その他」に入る。事務局から何かあればお願ひしたい。
- 事務局：
- ①次回は9月27日 午後6時から開始する。場所は市役会議棟にて開催
 - ②次回までに、事務局において、委員からの発言・コメントを総括シートのⅣ. 「推進会議による点検・確認結果」欄に落とし込み、総括シート（案）を完成させる。
次回推進会議では、その内容を1目標ずつ協議いただき、その後、市長へ「中期基本計画の総括」として冊子を提出する。
 - ③昨年度も開催した、「たかはま未来カフェ」の案内。
 - ④結婚支援事業の案内。
- 会 長：
- ・ただいま事務局から説明のありましたとおり、次回第3回推進会議では、第1回・第2回推進会議で委員からいただいた意見を反映し、シートを修正した箇所について行政から説明をいただき、その後市長へ「中期基本計画の総括」を提出する回となりますのでよろしくお願ひしたい。
 - ・これをもって、第2回総合計画推進会議を終了する。